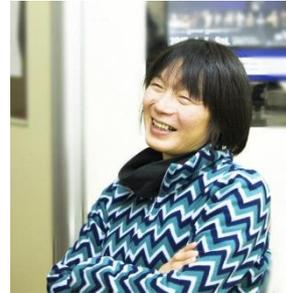


丹波市男女共同参画センターだより

幸せの総量を増やすために

性は多様であることが知られるようになるとともに、「LGBT」「LGBTQ」あるいは「^{ソギ/ソジ}SOGI」といったさまざまな言葉が飛び交うようになりました。

レズビアン（L）やゲイ（G）は同性を好きになる人です。その存在を知ることで、それまで「フツー」の存在だった「わたし」に「異性愛者」という名前がつきます。「自分は女／男なのに、生まれた時にお医者さんが男／女って言って、書類にそう書かれちゃったんだよね」という人がトランスジェンダー（T）です。その存在を知ることで、それまで「フツー」の存在だった「わたし」に「シスジェンダー」という名前がつきます。あるいは、好きになる相手が性別によらないバイセクシュアル（B）や「自分のセクシュアリティがわかりません」というクエスチョニング（Q）、「変態でなにが悪いねん！」というクィア（Q）という人がいます。その存在を知ることで、「性別ってなんなんだろう」という疑問が湧いてきます。このように、多様な性のあり方を知ることで、それまで名前のなかった「フツーのわたし」に名前がつき、同じ名前を持っていてもそれらの間に微細な差異があることがわかります。このように誰



土肥 いつき

京都府立高校教員、
トランスジェンダー生徒
交流会世話人

もがセクシュアリティを持っていて、しかもそれらは多様であるという考え方を「^{性的指向}SOGI（Sexual Orientation and Gender Identity）」という言葉で表します。

性は多様です。が、その多様な性のあり方の間に不平等があります。その不平等は、単に理解を広げるだけでは解消できません。昨今、多くの自治体が「同性パートナー制度」を導入しつつあります。では、制度があればそれで不平等が解消できるのか。それもまた違います。例えば「同性パートナー制度」があっても、同性と一緒に暮らすことが困難な社会であれば、制度の適用を受ける人はいないでしょう。つまり、制度があっても、それを使える社会でなければ、制度は紙切れに終わってしまうのです。制度と理解は車の両輪のようなものなのです。

ではなぜこのようなことが必要となるのか。それは、幸せな人が増えた方が、社会の幸せの総量が増え、幸せな社会が実現できるからです。今ある秩序を少し変えることで幸せな人が増えるなら、それをすればいい。そんなことを「性の多様性」は教えてくれます。

★3ページの「男女共同参画キホンの木」で、性の多様性についてピックアップしています。